

科目名	対象学科・学年	担当者
死生学	薬学部薬学2回生	西岡 秀爾
授業テーマ 「死」を見据えることにより、より充実した「生」を省察すること。		
授業の概要と目標 死生学は、「死」をタブー視し、非日常的なものとして遠ざける現代社会において、「死」に対する心構えという観点からいかによく生きるかを問い直そうというものである。生きとし生けるもの全てに訪れる「死」とどのように向き合い、関わっていくべきかを探究するのが死生学の課題である。「死」は決して個人一人の問題ではなく、人と人との関係性において共有されるべき問題である。受講者各自が、薬学従事者として「死」にまつわる問題意識をより一層高める機会となることを目指したい。		
評価方法 授業内に行う試験（レポート）の成績により評価する。 また、平常点（出席）を重視する。		
テキスト 必要に応じてプリントを配布する。 テーマに即したビデオや新聞も適宜紹介する。	著者	出版社
参考書 『死生学』第1～3集 『死生学とはなにか』 『死への準備教育』第1～3巻 等 （適宜紹介する。）	著者 日野原重明・山本俊一編 平山正実 著 A・デーケン 著	出版社 技術出版 日本評論社 メディカルフレンド社
授業スケジュール・内容		
1. 死生学とは何か	——歴史的背景、成立	
2. 哲学と死	——古代哲学、実存主義哲学	
3. 宗教と死	——キリスト教の視座、仏教の視座、宗教に学ぶ智慧	
4. 教育と死	——デス・エデュケーション（死への準備教育）、いのちの教育	
5. 医療と死	——延命治療、終末期医療、ホスピス、ビハラー	
6. 現代の死	——自宅死から病院死へ	
7. 二つの死	——「他者の死（二人称、三人称の死）」と「自己の死（一人称の死）」	
8. 生と死①	——殺人	なぜ人を殺してはいけないのか？
9. 生と死②	——死刑制度	死刑のある国－日本－
10. 生と死③	——死別悲嘆	死にゆく者と遺される者、グリーフとグリーフケア
11. 生と死④	——葬送儀礼	死者と生者の関わり、葬式、お墓
12. 死生学の応用①	——自殺予防への応用	関係のなかで生きる〈いのち〉
13. 死生学の応用②	——医療現場への応用	告知、自己決定権、消極的安楽死
14. 死生学の応用③	——家族関係への応用	自己の死生観の確立、リビング・ウィル
15. まとめ	——死生学の課題と展開 「Death Studies」から「Death and Life Studies」へ	